

京都大学カーボン・ニュートラル推進フォーラム

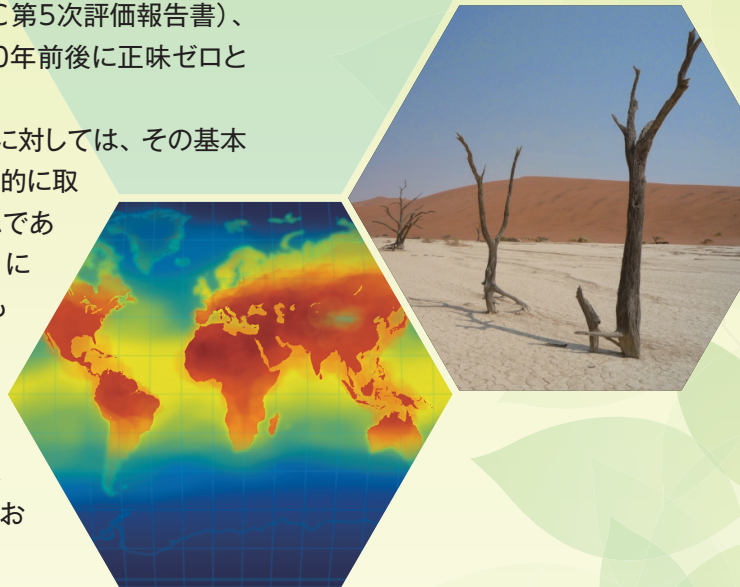
キックオフ・シンポジウム

—地球社会の調和ある共存に向けて—

「温室効果ガスの排出量がどのようなシナリオをとったとしても、世界の平均気温は上昇し、21世紀末に向けて気候変動の影響のリスクが高くなる。」(IPCC第5次評価報告書)、「1.5℃を大きく超えないためには人為起源のCO₂排出量が、2050年前後に正味ゼロとなる必要がある。」(IPCC1.5℃特別報告書)

人、社会、環境にとって喫緊の課題であるカーボン・ニュートラルに対しては、その基本理念に「地球社会の調和ある共存に貢献」と掲げる京都大学が積極的に取り組む必要があることから、研究者同士の情報共有プラットフォームである「京都大学カーボン・ニュートラル推進フォーラム」を2021年5月に設立したところです。このフォーラムには、117名(6月末時点)にもなる研究者が参加しており、今後、このフォーラムを核にカーボン・ニュートラルに関する様々な取組みを展開することとしています。

本シンポジウムは、この「カーボン・ニュートラル推進フォーラム」のキックオフを飾るイベントであり、京都大学の多種多様な研究者たちが、360°、様々な視点から切り込んでいくプログラムとなっておりますので、是非ご参加ください。



日時 2021年7月19日(月) 13:30-17:10

方式 オンライン開催 (Zoomを予定)

定員 500名
(一般の方、京都大学関係者など)

参加費 無料

申込・詳細 <https://www.kyodai-original.co.jp/?p=12006>

申込期限 2021年7月18日(日)

主催 京都大学カーボン・ニュートラル推進フォーラム

共催 京都大学オープンイノベーション機構



■プログラム

- | | |
|-------------|---|
| 13:30-13:35 | オープニングスピーチ
フォーラム代表
京都大学 理事・副学長 時任 宣博 |
| 13:35-14:05 | キーノート
「なぜカーボン・ニュートラルなのか」
藤森 真一郎 准教授(工学研究科) |
| 14:05-15:05 | ピッチトーク1
「『人・社会・環境』に迫る危機」
石原 正恵 准教授(フィールド科学教育研究センター)
関山 健 准教授(総合生存学館)
トレンチャー グレゴリー 准教授(地球環境学堂)
山根 久代 准教授(農学研究科) |
| 15:05-15:15 | フォーラムへのメッセージ
(休憩) |
| 15:20-16:25 | ピッチトーク2
「サイエンスの貢献」
井上 恵美子 特定准教授(白眉センター)
小川 まり子 助教(東南アジア地域研究研究所)
廣井 慧 准教授(防災研究所)
三谷 友彦 准教授(生存圏研究所) |
| 16:25-17:05 | ダイアログ
「地球社会の公正な共存へ」
宇佐美 誠 教授(地球環境学堂)
清水 美香 特定准教授(総合生存学館) |
| 17:05-17:10 | クロージングスピーチ
フォーラム事務局長
京都大学 オープンイノベーション機構 機構長 阿曾沼 慎司 |

※一部登壇者はビデオ登壇となります。

※登壇者は変更する場合があります。

プログラム / 登壇者紹介

13:30-13:35 オープニングスピーチ

13:35-14:05 キーノートスピーチ

■ 藤森 真一郎 准教授(工学研究科) 「なぜカーボン・ニュートラルなのか」

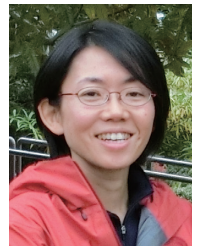
京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了。国立環境研究所研究員等を経て、2018年から現職。
専門は環境システム工学。
気候変動対策のエネルギー、土地利用、経済のシステム分析、および気候変動影響評価を研究テーマとしています。
統合評価モデルと呼ばれる理学、経済学、工学等複数の領域に跨ったシミュレーションモデルを構築し研究も進めており、グローバルから国レベルまでマルチスケールを対象とし、主として2050年、2100年といった将来の社会や環境を見通しながら政策提言等を行っています。



14:05-15:05 ピッチトーク1 「『人・社会・環境』に迫る危機」

■ 石原 正恵 准教授/芦生研究林長(フィールド科学教育研究センター) 「物言わず変わる森」

京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了後、東京都国立公園レンジャー、北海道大学、広島大学等を経て、2018年から現職。
専門は、森林生態学。
樹木の生態をベースに、森林、特に天然生林の樹木種の多様性や生産性を研究しています。最近では、人間活動や地球環境変化が、森林の生物多様性にどのような影響を与え、さらに物質生産などの生態系機能にどのような影響を与えるのか、という問いに答えるべく研究を行っています。また、シカの食害によって改変されてしまった芦生研究林の生物多様性や生態系の保全も取り組んでいます。



■ 関山 健 准教授(総合生存学館) 「気候安全保障 - 気候変動に起因する紛争リスク -」

博士(国際協力)、博士(国際政治)。財務省・外務省での勤務の後、東京大学、北京大学、ハーバード大学の各大学院で学び、私立大学・公益財団法人等を経て、2019年より現職。
専門は国際政治経済学、国際環境政治学、開発政治学。
最近では、気候安全保障、経済相互依存、米中関係などに関心を寄せています。国際政治経済の研究者として、どうやったら持続可能な国際社会を実現でき、その中で日本は、どうやったらより良いポジションを確保できるのか、といった事に指針を示したいと考えています。



■ トレンチャー グレゴリー (Gregory TRENCHER) 准教授(地球環境学堂)

「気候危機」とは何か？国内外で地球温暖化がもたらしている影響について

モナッシュ大学(豪)卒業、東京大学大学院新領域創成科学研究科博士後期課程修了後、クラーク大学(米)助教、東北大学大学院環境科学研究科准教授を経て2021年から現職。
専門は、エネルギー政策、持続可能性の推進に向けたイノベーション。学術的な関心は、脱炭素化の実現に貢献できるエネルギー技術(水素や再生可能エネルギー、FCV、EVなど)の普及拡大に向けた公共政策・企業戦略、および、持続可能性に関する課題の解決に向けたスマートシティにあります。社会科学のアプローチによって、公共政策の他、制度設計、ビジネスモデル、産学官民連携によるイノベーション活動などのガバナンスを研究しています。



■ 山根 久代 准教授(農学研究科) 「気候変動が果樹生産に及ぼす影響」

京都大学大学院農学研究科博士後期課程(学術振興会特別研究員DC1)中退。同大学農学研究科助教等を経て、2017年から現職。
専門は果樹園芸学、植物生理学。
温帯落葉果樹や熱帯果樹の生殖生理機構解明を主な研究テーマとし、特に温帯落葉果樹の休眠ならびに開花制御機構について研究しています。休眠の要因となる「低温要求性」の分子機構を明らかにし、気候変動が果樹の開花に及ぼす影響の将来予測と軽減対策につなげたいと考えています。



15:05-15:15 フォーラムへのメッセージ

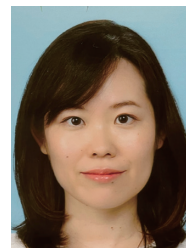
15:20-16:25 ピッチトーク2 「サイエンスの貢献」

■ 井上 恵美子 特定准教授(白眉センター) 「気候変動政策とイノベーション(仮)」

University of Oxford (MS)、京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了(博士(経済学))、日本学術振興会特別研究員DC2。京都大学大学院経済学研究科講師を経て、2018年から現職。

専門は環境経済学、環境政策。

経済発展と環境保全の両立を可能にする「持続可能な発展」を実現するための方策について、環境経済学の観点から研究しています。最近、その方策の一つとしてイノベーションに注目し、気候変動下における企業の環境対応がイノベーションに与える影響について分析しています。



■ 小川 まり子 助教(東南アジア地域研究研究所) 「熱帯泥炭地域の雨のモニタリングから地球温暖化を考える」

神戸大学大学院工学研究科博士後期課程修了。同大学都市安全研究センター特命助教等を経て、2019年から現職。

専門はレーダー気象学。

地中に大量の炭素を貯蓄しているインドネシア熱帯泥炭地域において、気象レーダー観測に基づいた雨量推定を主に研究しています。インドネシア海洋大陸に特徴のある降雨日周期特性、雨量と地下水位の関係等の分析を通じて、泥炭火災の延焼やヘイズの被害を最小限に抑えるための水文気象防災情報の活用を探っています。



■ 廣井 慧 准教授(防災研究所) 「ITができること、その展望」

東北大学工学部電子工学専攻卒業後、通信会社を経て、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科博士(メディアデザイン学)。名古屋大学未来社会創造機構特任助教等を歴任後、2020年から現職。

専門は、防災情報システム、災害情報の時空間解析。

地球温暖化やそれに伴う水害等に関して、都市の異常を知るための解析技術の開発や異常発生に関するデータ流通基盤の開発などを進めています。多種多様なデータを収集、蓄積、解析し、意味を導き出すとともに、災害や災害時の人間行動など様々な現象の推定・予測技術を生み出し、社会へ浸透させることを目指しています。



■ 三谷 友彦 准教授(生存圏研究所) 「次世代グリーンケミストリーに貢献するマイクロ波加熱技術」

京都大学大学院情報学研究科修士課程修了。同大学工学研究科より博士(工学)授与。同大学宙空電波研究センター助手、生存圏研究所助教を経て、2012年から現職。

マイクロ波加熱(マイクロ波という電磁波を使って物質を加熱する方法)応用、マイクロ波帯での空間放射型ワイヤレス給電を研究テーマとしている。

特に最近では、化学、材料科学、農学等の研究者との融合研究による「グリーンケミストリーに資するマイクロ波加熱」を実現するための研究を進めている。



16:25-17:05 ダイアログ 「地球社会の公正な共存へ」

■ 宇佐美 誠 教授(地球環境学堂)

名古屋大学大学院法学研究科博士課程(前期)修了。博士(法学)。ハーバード大学客員研究員の後、中京大学教授・東京工業大学教授等を経て、2013年から現職。

専門は法哲学・政治哲学。

分配的正義の理論分析と、気候正義・世代間正義・グローバル正義・移行期正義などの応用的研究を行っています。近著に、『気候崩壊』(岩波書店、2021年)、『AIで変わる法と社会』(編著、岩波書店、2020年)、『正義論』(共著、法律文化社、2019年)、『気候正義』(編著、勁草書房、2019年)など。



■ 清水 美香 特定准教授(総合生存学館)

米国日本大使館、野村総合研究所アメリカなどの研究職を経て、大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了。2013年に米国から帰国、京都大学防災研究所等を経て2020年から現職。

専門は、公共政策、社会システム、レジリエンス。

気候変動問題と他の自然・社会経済リスクを踏まえた社会システムデザインを研究テーマとしています。特に近年気候変動適応やSDGsに関わる問題をレジリエンスの視点から紐解き、持続可能な社会への道筋に適用していくアプローチを研究。現在、A Resilience Approach for SDGs (Springerから2022年出版予定)を執筆中。



17:05-17:10 クロージングスピーチ